

研究タイトル： 近世期の御蔵所の空間構成原理及び 地方性、歴史的建造物の保存・活用



氏名： 相模 智雄 / SAGAMI Chikao E-mail: sagami@sendai-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本建築学会, 日本民俗建築学会

研究分野： 建築史および意匠関連

キーワード： 歴史的建築, 文化財, 蔵, 古文書, 保存・活用, コンピューター・グラフィックス

技術相談
提供可能技術：
・歴史的建築の調査及び評価
・古文書解読
・コンピューター・グラフィックスによる復元等のイメージ作成

研究内容：

建築学の建築歴史・意匠分野の研究を行っております。対象は日本建築で、近世の幕府や諸藩の施設の中でも、財政上最も重要な施設であった御蔵所を対象にしています。御蔵所は、村々から運ばれてくる年貢米の徴収に用いられる施設であり、全国各地の幕府領や諸藩領に多数設けられていました。しかし、明治維新後の廃藩置県、租税の金納化によって不用になり、学校建築などに転用されるものもありましたが、現在では建築遺構はわずかです(Fig.1)。しかし、見取図等の史料が残されている地域がありましたので、全国の藩毎に建物配置や御蔵の建築構成について検討し、近世期の日本における御蔵所の空間構成原理や地方性を明らかにしました。このような御蔵所は、西日本と東日本とで空間構成が異なるなど、近世文化の多様性を表すものとして注目されます。さらに、この研究を発展させるため、これまで検討してこなかった河口港における廻米用御蔵所について検討しています。年貢米は、河川水運を用いて輸送され、河口港において海船に積み替えられて米市場の江戸や大阪へは運ばれて売却されました。米は重要な財源だったので、このため、幕府や藩は河口港に廻米用御蔵所を設けました。これは、上記の年貢米徴収用の御蔵所とは空間構成が異なっています。また、太平洋側と日本海側とで蔵の造りなどが異なることが明らかになりつつあります。この研究によって、御蔵所という日本建築史の空白部分を埋めることができると考えております。

一方、地元名取市では、文化財審議委員や「なとり歴史的建造物研究会」の代表を務め、市と連携して、市内の歴史的建造物の保存や活用について活動を行っています。お隣りの岩沼市では、竹駒神社馬事博物館調査検討委員会委員長を勤めています。馬事博物館は、県内では珍しい昭和期の戦前に建築された和洋折衷式の建築です。研究室活動として、学生が調査に協力しました。その成果により国の登録有形文化財に登録されました(Fig.2)。県南の村田町では、震災後の国による重伝建地区選定をきっかけに町並みの復元が課題になり、県建築士会より復元図の作製を依頼されました。石巻市の旧ハリストス正教会教会堂の復元図(Fig.3)などコンピュータを駆使して作製したCGは自治体などでご活用いただいております。また、戦後に建てられた現代建築も建替えの時期になっていますが、十分な評価が行われず、取り壊されるケースが見られます。歴史的建築の評価を行い、活用法を探ります。建築や町の変遷、過去の暮らしを語る古文書等も消失の危機にあります。これらを解読し、未来へ継承するための技術を提供します。



Fig.1 熊本藩川尻御蔵の建築遺構

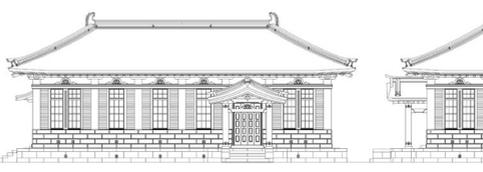


Fig.2 実測によって作製した馬事博物館 CAD 図面



Fig.3 震災復興建造物復元CG

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)